

中学生のメッセージ2016

第38回 少年の主張 三重県大会



デザイン画:「Draw my dream」四日市市立朝明中学校3年 佐藤由季さん



公益財団法人三重こどもわかもの育成財団
三泗地区中学生のメッセージ実行委員会
独立行政法人国立青少年教育振興機構

は じ め に

昭和54年の国際児童年を記念して始めた中学生のメッセージ（少年の主張三重県大会）は、多くの方々に支えられ、38回を数えることができました。

本年度は1万1921名もの応募がありました。題材は、友達、家族、社会情勢、平和、将来の夢などなど多岐にわたりますが、中学生らしいまっすぐな感性があふれるものばかりでした。

そうした中から、選りすぐられた12名が最終選考である「中学生のメッセージ2016」大会に臨み、自分の言葉で堂々と発表してくれました。皆さんの自信となり今後につながる機会になったのではと感じています。

そして、この大会の特徴の一つとなっていますが、中学生による運営は今年も会場から絶賛頂きました。司会、受付、案内、表彰アシスタントを明るい笑顔でこなしてくれた皆さん、美しく迫力のある合唱で会場を魅了してくれた皆さん、素敵なデザイン画を描いてくれた皆さん…中学生のパワーを見せてくれました。

また、1年間にわたり大会の準備を念入りに行ってくださった三泗地区青少年育成市町民会議関係者からなる実行委員会の皆さん。当日、遠路各地から応援に駆けつけてくださった各青少年育成市町民会議の皆さん。大人と、中学生の温かい交流の場ともなり、第38回大会を無事終了することができました。

そして嬉しいことに、今回、最優秀賞に輝いた四日市市立羽津中学校3年中前純奈さんが、中部・近畿ブロック選考を通過し、全国大会に出場し3位である国立青少年教育振興機構理事長を受賞されました。

今後も、「中学生のメッセージ」が、中学生の皆さんにとって輝ける思い出となるよう、地域の皆さまと共に育て続けていきたいと思っています。

より一層関係者の皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

理事長 太 田 栄 子

平成28年度 中学生のメッセージ 2016

(平成28年8月27日 菰野町町民センターホール)



発表者と審査委員の皆さん



主催者からの大会挨拶



最優秀受賞者は全国大会へ出場



菰野町長から
歓迎挨拶



三河地区実行委員会の皆さん



来賓の皆さん

目 次

はじめに

◆大会発表作品

最優秀賞

「伝えたいこと」 四日市市立羽津中学校 3 年 中前 純奈…… 1

優秀賞

すべきことをできるようにするために 津市立南が丘中学校 2 年 島 裕乃…… 3
世界に和の心を広げるために 紀北町立紀北中学校 3 年 中西 百音…… 5
憎しみを憎しみで返さない 四日市市立富洲原中学校 3 年 間瀬萌々子…… 7

優良賞

「思いやり」ってなんだろう セントヨゼフ女子学園中学校 3 年 伊藤 悠奈…… 9
「真の平和の実現に向けて」 松阪市立大江中学校 2 年 梅田 颯…… 11
「当たり前」ではなく 名張市立名張中学校 2 年 織田 光里…… 13
平和を考える 三重大学教育学部附属中学校 3 年 紀平恵梨子…… 15
「便利」って本当に良いこと？ 学校法人暁学園暁中学校 3 年 木村 優奈…… 17
私にもできること 多気町松阪市学校組合立多気中学校 3 年 中西 花梨…… 19
マスコミの報道の仕方 名張市立北中学校 2 年 森 準之典…… 21
僕の大切な弟 菰野町立八風中学校 3 年 諸岡 隼…… 23

◆審査委員の評価……… 25

◆大会概要及び審査基準

- 1 応募の状況……… 31
- 2 審査基準及び審査委員……… 32
- 3 地域優秀賞受賞者一覧……… 33
- 4 学校奨励賞受賞校一覧……… 34

◆大会メモリアル……… 35

◆中学生への応援メッセージ……… 39

◆協賛企業・団体紹介……… 40

◆参考資料

- 中学生のメッセージ2016（第38回少年の主張三重県大会）実施要項……… 41
- 第38回少年の主張全国大会～わたしの主張2016～……… 43
- 平成28年度内閣総理大臣賞の紹介〔少年の主張全国大会～わたしの主張2016～〕……… 45

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。



最優秀賞・国立青少年教育振興機構理事長賞 「伝えたいこと」

四日市市立羽津中学校3年

なか まえ じゅん な
中 前 純 奈

そのニュースを見た時、しばらく言葉がでませんでした。今年の7月、神奈川県「津久井やまゆり園」で知的障がい者19人が殺される事件が起きました。この事件は悲しい、ひどいという感情だけでなく、私を動揺させました。多分それは私の姉に知的障がいがあるからです。

私が小4の頃から、8歳年上の姉より私の方ができるようになってきました。靴の紐を結ぶのに時間がかかり、お金の計算が苦手な姉に、イライラし腹を立てたりしてきました。姉と一緒に外を歩くと周囲の目が気になり、隣を歩きたくないと思う時もあります。しかし、その反面、優しいなと感じることもあるのです。私ともう1人の姉が喧嘩をした時には、喧嘩の理由がわからなくても仲裁に入り、私をなぐさめてくれます。私が

「頭、痛いな・・・」

と言えば、とても心配し

「ポカリ買ってこようか？」

など面倒をみてくれようとします。産まれた時から一緒に暮らしている姉だから、腹が立つことがあっても、けっして嫌いにはならないし、このままの姉でいいと思っています。

けれども、私と同じ考えの人ばかりではないのだと感じる時があります。

ある日、部活の帰り皆疲れて、駅のホームに座りこんでしまった時がありました。

「ここ、すわってると一、みんなの迷惑に一なると思いますー。」

と知的障がいの人が優しく言ってくれました。

「すみません。」

といい立ち上がった人がほとんどでしたが、

「しゃべり方、やばいね。」

と笑いながら立ち上がった人もいました。私はその言葉を聞いた時、なんだか姉のことも馬鹿にされているようでとても悔しかったです。そして、こういうことを言う人、障がい者を見た目や行動だけで判断するのではなく、障がいがある人の内面のいいところをたくさん知ってほしいなと感じました。

そこで、人権についての授業後の感想に、姉の障がいについて気持ちを書きました。

すると数日後、それを読んだ先生から学年通信に載せたいと言われ、私はとても嬉しくなりました。なぜなら、皆に姉の様な障がいがある人やその家族の気持ちを伝えられるチャンスだと思ったからです。

★部活動や学校外活動	バレーボール部
★好きな科目	国語・英語
★好きなことや好きなもの	読書・書道
★将来の夢	介護福祉士

その学年通信が配布された日、帰りの会でクラスの皆の前で通信を読み、そのあとに、
「みんなの障がいがある人に対する思いを少しでも変えてくれたら、私のように一緒に暮らしている家族も、少し気持ちが楽になると思います。そして、そんな家族をみている姉達も、とても嬉しいと思います。」
と、自分の気持ちを話しました。

しかし、話し始めると自分がクラスメイトにどう思われているのかと怖くなり、手は震えてしまい、途中で涙もでてしまいました。とても恥ずかしかったけれど、自分の考えを伝えることができたので、すっきりしました。

帰りの会が終わると、クラスメイトが来て、声をかけてくれました。その中で
「俺、見方変えるわ。」
と言ってくれた人もいました。とても嬉しかったです。私の話を聞いて、見方を変えようとしてくれたことも嬉しかったし、正直に自分の気持ちを伝えてくれたこともとても嬉しかったです。このクラスメイトみたいな人がもっと増えていくといいなと思いました。

もしも、私の姉が知的障がいではなかったら、私も障がい者の人を見て、変な人だなあと
思っていたかもしれません。しかし私には姉がいます。私は姉の障がいを個性だと思っています。出来ないことが多い姉でも、私達家族を和ませてくれる大切な存在です。だから、世の中の人達にも、親しみを持って接して欲しいです。接することが難しいのなら、せめて温かい目で見守って欲しいです。障がい者がいなくなればいいなんて思わないでほしいです。
障がいがあるからといって傷つけないでほしいのです。

私は将来、姉のような「障がい」がある人がその人らしく安心して生活できるようサポートする介護福祉士になりたいです。そしてみんなの「障がい」に対する見方を変えていければいいなと思っています。





優秀賞

すべきことをできるようにするために

津市立南が丘中学校2年

しま ひろ の
島 裕 乃

私も、私以外の人もしっかり先生や親に「世界には学校にも行けない子ども達がいるの」とか「世界には3食を十分に食べることの出来ない人達がいるのよ」と教えられたと思います。そしてきっと誰もが心のどこかで「自分には関係ないから」と思ったことがあるのではないかなと感じます。私も決して例外ではありません。

しかし、中学生になって、社会の教科書や自分が買った商品の袋などにフェアトレードという言葉が載っているのを知りました。フェアトレードというのは、途上国の人の生活を支援するために現地のものを公正な価格で買っていますよ、ということを表すものです。私は、途上国の問題を真剣に考える企業や人たちがいることを知り、この事実が先進国と呼ばれる日本人達に広まったらいいなと思いました。

そこで、私達は今何をすべきかを考えてみました。私は人の意識を変えるべきだと思います。「世界のどこかで誰かが困っているというのが当たり前」という意識を変えるべきです。でも自分が恵まれているという意識が低い人や、この問題を考えたことがない人がいる今は、きっと誰もが思うはずです。「現実的じゃないな」と。

だから私は捉え方を変えようと思いました。「情けは人の為ならず」という言葉を知っているでしょうか。この言葉は人に親切にしてもその人の為にならないという意味ではなくて、人に親切にしたらめぐりめぐって自分にもどってくるという意味なのだそうです。私は今、将来の目標のために頑張って勉強しています。いつかは目標が達成できるでしょう。そのとき、私を含む誰もが正しい評価とそれに見合った収入を得られる社会に成長してほしいです。そのために私は今まで正しい評価をされにくかった人達がいたと覚えておきます。そして「情けは人の為ならず」のように、自分が家の手伝いで得ている「おこづかい」という収入を使ってフェアトレードの商品を買おうと思います。この決意は途上国を助けたいという純粋な思いだけではないけれど、めぐりめぐって自分に良い事がもどって来ると思えるから積極的に行うことができるはずです。

これまでの主張は私の提案です。捉え方を変えて行ってみるかどうかは皆さんの自由です。ただ人間はそんなに完璧な生き物ではありません。だから今までみたいに「世界ではこんなに多くの人困っているんだよ」と訴えかけているだけでは私の心には届かなかったし、他にも届いていない人がいると思います。今まで興味のなかったものを「得」の感情で知ってもらい、それが他の人を助けるなんて、とても良いことばかりだと思いませんか。

★部活動や学校外活動	PC・芸術部
★好きな科目	数学
★好きなことや好きなもの	読書・タイピング
★将来の夢	考え中

自分の利益になるか否か、そのような気持ちを使わないと誰かの問題を共に解決できないなんて、とても残念なことなのかもしれません。でもそれが今の私達の「できること」の限界だと思います。そのときそのときの自分の立場で、自分の力でできることを精一杯行うことで、いつか「すべきこと」が「できること」に変わると信じています。それを実現できたそのときがきっと途上国の問題はもちろん、世の中にあふれる問題を解決へと導く糸口が見つかると思います。





優秀賞

世界に和の心を広げるために

紀北町立紀北中学校3年

なかにしもね
中西百音

私の将来の夢は、外国に行って、日本の文化を教える仕事をする事です。私は、小学生の頃から習字を習っていて、今はやめてしまったのですが何年か茶道も習っていました。

初めて筆を持った時、慣れない感覚に惑い何度も失敗しました。しかし、先生に筆の持ち方から止めやはらいの仕方、道具のあつかい方までいろんなことを教えてもらい、だんだん上手く書けるようになりました。最初はできなかったことができるようになっていくととても嬉しい気持ちになります。私は、この「できた」喜びを、日本の文化を通して、たくさんの人に味わってほしいと考えるようになりました。この感覚は、初めてお茶を立てた時も味わうことができました。ただの粉と水の状態から、素早く細かく手を動かし続けると、ふんわりとした泡がたってきます。そして、自分が立てたお茶を人に飲んでもらい、おいしいと言われるととても心が温まります。

日本人が、世界中の人々に「礼儀がいい」「親切だ」と言われているのには、何百年もの間受けつがれてきた「和の心」が、深く影響していると思います。例えば茶道では、お茶を出す時、必ずお茶わんの一番きれいで華やかな部分を相手側に向けて出します。それに対し出された側は、一番美しい所に口をつけるのは失礼だとして、さらに反対に回して飲むのです。

こういった、謙虚な心は日本人の普段の生活にも深く根づいています。例をあげると、混んでいる電車の中でお年寄りに席をゆずったり、荷物を持ってあげるなどです。自分だけが良かったらいいのではなく、相手を第一に考えて行動する、こんな素晴らしい心を多くの人に学んでもらいたいと思います。また、茶道で、隣の人よりも先にお菓子やお茶がきた時は、お先に、と一礼してから頂きます。私は、茶道ほど相手を思いやる気持ちが学べる文化はなかなか無いと思っています。

さらに、習字や茶道は「物を大切にする心」も学ぶことができます。筆は、雑なあつかいをするとすぐに劣化してしまいます。だから、丁寧に丁寧にあつかわなければなりません。日本では、昔から、親から子に、子から孫にと物を受けついで大切に使う風習があります。一つの物を、長く丁寧に使うことで、物に愛着がわき、使うたびに小さな幸せを感じることができると思います。

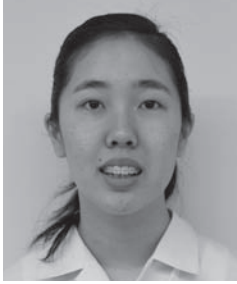
私は、日本に生まれて良かったなと思うことがたくさんあります。例えば、テレビなどで外国人が日本をほめていたりすると、日本人として誇らしく、そして嬉しくなります。

★部活動や学校外活動	陸上部
★好きな科目	国語・体育
★好きなことや好きなもの	絵を描くこと
★将来の夢	海外で日本の文化を広めること

もちろん、日本には日本の良い所があるように、他の国にも独自の素晴らしい文化があります。外国の人と交流することで、日本の良い所を伝えるとともに他国の文化を学ぶことができたなら、とても素敵だな、と思うのです。

4年後には、東京オリンピックも開催され、ますます世界から日本への注目は大きくなっていくと思います。私は東京オリンピックは、おもてなしや、礼儀、美しい自然、日本の「和の心」を全世界に向け発信していく絶好のチャンスだと思っています。4年後までに、日本はもっともっと良い国にならなければなりません。これからの日本を守り、そして作っていくのは、私達ではないでしょうか。





優秀賞

憎しみを憎しみで返さない

四日市市立富洲原中学校3年

間 瀬 萌々子

この1年を振り返って、今まで私が心に持っていた日本人の信念や精神がくつがえされた衝撃的な出来事があったことを思い出します。

それは、昨年11月に起こった過激派組織イスラム国によるフランスパリ同時多発テロ事件での出来事でした。

このテロは、コンサートホールやサッカー場を標的とした同時多発テロで、130名が死亡、300名以上の負傷者を生んだ大変悲惨な事件でした。

そんな悲惨で世界中が嘆き悲しむ中で、ある1人の男性が発した言葉が、私の胸を大きく打ち、私の概念を変化させました。その男性は、今回のテロによって大切な奥様を亡くされたアントワヌ・レリスさんとおっしゃる方です。彼は、幼い息子さんと2人きりになってしまいました。テロの犯人に対する怒りは、はかりしれないものだと思います。込み上げてくる怒りで、言葉を発することもできないくらいかもしれません。

しかし、彼は、テロの実行犯に「君」と呼びかけた手紙を書きました。

「私と息子は2人になった。でも世界中の軍隊よりも強い。昼寝から目覚めた息子メルビルのところに行かなければいけない。彼は生後17ヵ月で、いつものようにおやつを食べ、私たちはいつものように遊ぶ。そして幼い彼の人生が幸せで自由であり続けることが、君たちを辱めるだろう。彼の憎しみを勝ち取ることもないのだから。だから、決して君たちに憎しみという贈り物はあげない。」

この彼の手紙は、憎しみを憎しみで返さないことで、テロに対して決して屈しないこと、そして、テロリストへの怒りを普通に暮らすことで跳ね返し、怒らないことで逆に痛烈に非難しているように思えました。彼の言葉が持つ力の大きさによって、暴力には暴力で対抗するという、「目には目を」のような発想は打ち碎かれたように感じました。

私は、彼の手紙によるメッセージを聞くまで日本人の信念や精神は、忠臣蔵のように、主君が無念の死を遂げたときは、家臣が主君の仇をとったり、大ヒットしたドラマ「半沢直樹」の「やられたらやり返す倍返しだ」の名ゼリフのごとく、ひどい目に合ったときは仕返しをすることが当たり前で、美学であるのではないかと思っていました。

私も昔喧嘩した相手にひどいことを言われ、思わず言い返してしまったことがありました。

しかし、アントワヌさんのような憎しみを憎しみで返さないことのほうが、感情を行動で示すことよりも、秘めた力は大きいと感じました。悲しみの極限を経験した人の言葉は、

★部活動や学校外活動	美術部
★好きな科目	国語・数学
★好きなことや好きなもの	絵を描くこと・映画鑑賞・読書
★将来の夢	人を助ける職に就きたい

一言一言に言うに言えない説得力があるからです。

自分が相手から嫌なことをされたから、相手にも嫌がることをしてやろうと考えれば、相手は自分が嫌なことをしたから仕返しにきているんだと気づき、そこで終わればまだいいけれど、相手はさらに上回った嫌がらせをしてくるかもしれません。その繰り返しになれば憎しみは大きくなるばかり。お互い本来持っていた優しい気持ちは小さくなり、人間として人を憎しみ憎まれて生きていることは、幸せではないと思います。大切な人生、そんな生き方でいいの？と考えてしまいます。

しかし、実際は、なかなかアントワヌさんのような言葉を発することなどできません。大切な家族の命が奪われたのですから。病気ならば、見えない敵になりますが、人の手によるものならば、見える敵が存在するわけです。

2014年ノーベル平和賞を受賞されたマララ・ユスフザイさんは、自らテロリストから頭部に銃撃を受け生死まで脅かされたにも拘わらず、言葉によるメッセージで平和の大切さを訴え続けています。

見える敵に対して、復讐のために刃を向けることが、正しいこと、美徳なこととは必ずしも言えないと思います。これからの人生、何が起るかわかりませんが、私が万一同じ立場にたった場合、憎しみを憎しみで返すのではなく、もう一つ違う立ち位置から相手の気持ちや考え方を見て、さらに、自分の人生において後悔しない選択かどうかを考えてから、言葉や行動に移していきたいと思います。





優良賞

「思いやり」ってなんだろう

セントヨゼフ女子学園中学校3年

伊 藤 悠 奈

私が主張したいことは、バスや電車などで席を譲ることについてです。

平成27年10月19日の朝日新聞の声という欄にこんな投稿が寄せられていました。ある一人の少年が帰宅するために満員のバスに乗っていると1人のお年寄りの男性が乗ってこられたため席を譲ろうとすると「ふざけるな」と怒鳴られたそうです。この投稿の後、たくさんの方々から反響の投稿が寄せられていました。お年寄りの方の立場から考えた意見や少年の立場から考えた意見など、さまざまな意見がありました。それらの意見を見た上で私の意見を考えてみたかったのでこのテーマについて主張することにしました。

実際、私もこれと似たような経験をしたことがあります。それは私が小学6年生の時、遠足に行った帰りの電車でのことです。私が友達と2人で座っていると、2人の50代後半から60代前半ぐらいと見られる女性が乗ってこられたため席を譲ろうとすると「私達そんなに年寄りに見えるかしら」と言われました。その時私は席を譲るという行為は誰にとっても良いことやうれしいことであると思っていたので、言われた時は驚きしかありませんでした。その後座られたものの今でもお年寄りの方や妊婦の方などが電車やバスに乗ってこられても、あの時のように相手を嫌な気持ちにさせてしまうのではないかという考えが頭に浮かび、席を譲るという行為への恐怖心があります。

席を譲るという行為は今日の日本で奨励されている行為ですし、席を譲ることに対して良い印象を持っている人もいるでしょう。しかしその行為にあまり良い印象を持っていない人もいると思います。なぜなら一人一人の顔が異なるように、一人一人の意見も異なるからです。つまりこの行為は全ての人にとって良いことやうれしいことではないのです。席を譲るという行為にあまり良い印象を持っていない人の意見を急に変えることはできませんが、少しでも変えてもらうために席を譲る側の意見を考えてみました。譲る側だって一人の人間です。いつでも席を譲ることができるわけではありません。時には足が痛かったり腹痛がしていたりなど体調不良の時だってあります。もしかしたらその少年や私のような経験をして、席を譲るという行為に対して恐怖心がある人もいるかもしれません。席を譲るという行為は案外勇気が必要で、容易なことではないのです。勇気を振りしぼって声をかけたのに「ばかやろう」なんて言葉をかけられたその少年の気持ちはどうでしょうか。改めてその言葉の無神経さが痛感されます。

席を譲るという行為は先ほども述べた通り、決して容易なことではありません。

★部活動や学校外活動	ボランティア部・校風委員
★好きな科目	国語・英語
★好きなことや好きなもの	自分の部屋を好きなもので飾りつけたりすること
★将来の夢	人の役に立ち、社会に貢献できる仕事に就く

だからこそ、この行為には席を譲る側と譲られる側お互いの相手を思いやる心が大切になってくると思います。お互いがお互いのことをよく理解して、あの人は顔色が悪いから席を譲ろうとかいろいろ考えて行動することができる人がもっと増えたら、自然と思いやりの気持ちは芽生えてくると思います。

今の日本は少子化と高齢化が同時に進んできていて、いずれたくさんのお年寄りの方を私達若者が支えなければなりません。これからの日本を作り変えていくのは私達若者の役割です。人と人の関わりは難しく困難に出会うこともたくさんあるでしょう。だからこそ今私達は思いやりの心を持ちお互いを理解し合うことが必要なのです。そうすることが出来たらもっともっと住みよい日本になるのではないのでしょうか。





優良賞

「真の平和の実現に向けて」

松阪市立大江中学校 2年

うめ だ はやと
梅 田 颯

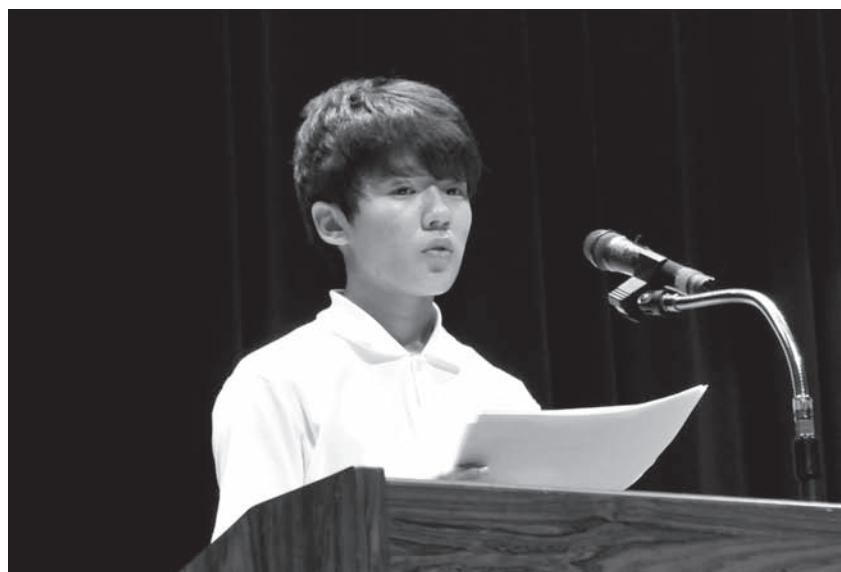
最近、テレビや新聞などでテロに関するニュースをよく見ます。パリ、ベルギー同時多発テロの後、フランス、トルコとテロが続き多数の死傷者が出ました。罪の無い一般人がこうして負傷したりするのはとても悲しいことです。そこで私は「真の平和」について考えました。

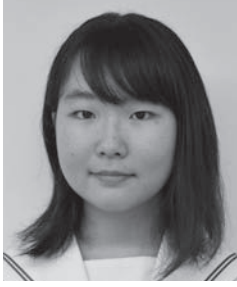
今の日本は、戦争も大きなテロも無く平和です。けれど、世界の至るところで争いは絶えることが無く、平和とは程遠いような地域がたくさんあります。また9・11以降、様々なグループのテロ活動も、冒頭に書いたように、絶えるどころか、非惨いや凄惨な状況に失望感すら覚えます。人は誰も、「平和に暮らしたい」と考えていると思います。けれども現状は、理想とは掛け離れたものとなっているのです。特にテロや難民が多いヨーロッパの各地や争いが絶えない中東、多くの子供達が栄養失調で亡くなっているアフリカ等、平和が維持できていない地域が多いと伝え聞きます。私は、一人でも多くの人々が安心して暮らせる世の中になってほしいと思います。そんな今、私達中学生ができることと言えば日常の学校生活や地域の方々に参加する運動会などで集めているユニセフ募金を届け、ワクチンの購入に役立てて頂くこと等でしょうか。本年度の運動会、私は生徒会として募金活動をしました。地域の方々に呼びかけると、多くの方々が募金に協力してくれました。励ましの声を掛けて頂き、嬉しくなりました。けれど、義務教育中の中学生ですから、できることは限られています。しかし、それが精一杯のものであるならば、届けられるものは決して小さくありません。むしろ、一人一人が豊かな心や気持ちを持っていれば、もっとたくさんのワクチンであったり、命を守るものにもつながることができると思います。今まで私は、「私達中学生の取り組みが、命のワクチン等になる。」という事実まで意識して募金をしたりはしていませんでした。ということは、もっと明確に自分なりの考えや意志をもって一人一人が行動すれば、何かを変えることができるかもしれません。そんな自分の信念をより強いものにするために、そして育くんだ信念を一人でも多くの人に伝え共感してもらいたいと思いました。

今年5月、三重県で伊勢・志摩サミット（主要国首脳会議）が開催されました。その中で中東問題や、国際テロ・難民についても各国首脳が話し合われたと聞いています。そればかりか、オバマ大統領の被爆地ヒロシマ訪問もありました。そのメッセージの中に「平和的な協力をしていくことが重要です。」というものがありました。オバマ大統領だけでなく、世界の中心である7ヶ国のリーダーの方々が、真の平和の実現に向けた具体的な方針と方策を議論し、牽引できればと願います。

★部活動や学校外活動	ソフトテニス部・生徒会
★好きな科目	社会
★好きなことや好きなもの	歴史
★将来の夢	人の役に立つ仕事をしたい

世界全体が平和になるということは、とても難しいことで、平和な世界の実現に向け一人一人が平和について考え、戦争をしないという意志や、テロへの対策とその撲滅が大事だと思います。世界ではこの瞬間にも、一日一日を生活するのが精一杯であったり、食べ物が無かったり、戦争などに怯えながら生活している方々が大勢います。いつか、こういった思いをしている人が無くなる日がくるまで、僕達は今の世の中を完全な平和だと思わず、広い世界の各地では、苦しい思いをしている方々がいるんだということを忘れてはならないと思いました。人間にとって大きな課題である「平和」。「真の平和の日」がくるまで、一人一人が出来ることを自分なりに感じ考え見出し、実現に向け生きていきたいです。そして、中学生である僕達は日々の生活の中から、募金であったりできる事もあります。しかし、志をもってやろうと行動しても、自分だけでは小さなことしかできません。そこで自分の考えや思いを仲間に伝え共感してもらい、どんどん仲間を増やしていくことも大切です。今、私の仲間はまだ少ないですが、「真の平和の実現に向けて」日々の生活の中でも仲間と共に取り組みたいと思っています。





優良賞

「当たり前」ではなく

名張市立名張中学校2年

お だ ひか り
織 田 光 里

「男性なのに、家事ができて素晴らしいですね。」これは、あるニュース番組で、主夫として家庭で料理や洗濯などの仕事をする男性に向けて番組のコメンテーターの方がかけた言葉です。その場では、普通の言葉とされていたのですが、私は少し違和感を感じました。男性だから、家事ができることが素晴らしいことなののでしょうか。女性は、家事ができて当たり前なののでしょうか。そんな疑問が私の頭に浮かびました。

私がそう感じるようになったのは、ジェンダーギャップ指数という、世界各国での男女格差を示す指標を知ってからでした。日本は世界の145ヶ国中、101位とこの指数が非常に低い国です。しかし、私は一人の女性としてこの日本でそれほど男女格差を感じたことはありませんでした。女性が家で家事をこなし、男性が働くことが当たり前という考え方に何の疑問も持っていませんでした。そのうえ、家事や育児をする男性に珍しいという感覚さえありました。私の家でも、母が働きながら家事をすべてこなしています。

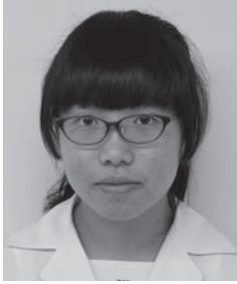
ですが、日本以外の国に目を向けてみると、男性が家事や育児をする時間を多くの国が日本を上回っています。内閣府のホームページでは、日本の男性が家事や育児をする時間の割合は、欧米諸国と比べると3分の1程度だと書かれています。このことから私は、世界では「女性が家事や育児をすることは、当たり前である」という考えや、「男性が家事や育児をすることは珍しい」という感覚は違っているということに気付くことができました。日本でも、男女共同参画社会基本法が定められてから、少しずつではありますが、性別に関係なく働いたり家事や育児をすることができるようになりました。

しかし、日本では男性が育児休暇をとったり、主夫になるということがあまり受け入れられていない現実もあります。徐々に改善しつつはありますが、昔から女性が家事や育児をすることが当たり前で、男性がその役割をすることがほとんどなかった日本では、それが受け入れられないのも無理はないと思います。あのニュース番組でのコメンテーターの方の言葉も、昔からの考え方だったらいって普通の言葉だったのだと思います。そうやって、考え方を変えるというのは難しいことです。だからこそ今、感覚が養われるこの中学生という時期にしっかりと、どんな社会にしたいかや、「平等」とはどんなことかなどを考えていかなければならないと思います。社会に出たときに、女性だから、男性だからと役割を決めつけるのではなく、たくさんの選択肢の中から自分と家族の形に一番合った方法を自由に選べるような社会にできるよう、今を大切に生きていくことが大事だと私は考えています。

★部活動や学校外活動	美術部
★好きな科目	英語
★好きなことや好きなもの	読書・絵を描くこと
★将来の夢	自分の得意なことが生かせる職業

男性、女性にかかわらず、家事や育児は大変なことだと思います。それも、仕事をしながらだと、もっと疲れることだと思います。だから、私たちは食事を作ってくれる人、育ててくれる人に感謝しなければなりません。自分の価値観で「当たり前」と言う前に、心の中で、これは本当に「当たり前」なのか、自分の考え方で、誰かを嫌な思いにさせたりしていないかと一歩立ち止まって考えてみてください。男女差別に限らず、どんな差別でも、自分が「当たり前」と勝手に決めることから始まると思います。一人ひとりが「当たり前」を「ありがとう」に変えることができれば、幸せに毎日を暮らせる人が増えるのではないのでしょうか。





優良賞 平和を考える

三重大大学教育学部附属中学校3年

紀 平 恵 梨 子

平和とは何だと思いますか。戦争とは何だと思いますか。平和を維持することはとても難しく、戦争はすごく簡単に起きてしまうものだとは私はこの春改めてそう考えるようになりました。

私がこうしたことを考えるようになったのは、沖縄への修学旅行がきっかけです。

私は戦争について何も知らないわけではなかったけれど、日常的に戦争を意識していたわけではありません。

しかし、修学旅行で私の意識は大きく変わりました。私達は5月に修学旅行で沖縄へ行き、ひめゆり平和祈念資料館などを訪れました。その中でも当時使われていた南風原陸軍病院の壕の見学は特に印象に残っています。年の近い女学生と自分を重ねて見ていたからです。壕は、中に人がいたとは思えないくらい暗くごつごつとしていました。目の前の壕で、ほんの70年前に多くの兵士がもがき苦しみ息絶えたこと、女学生達が必死に働いていたこと、戦争の残酷さをまざまざと感じました。同時に今まで戦争を意識せずに過ごしてきたことの罪悪感が生まれました。修学旅行では平和学習を中心に、色々な所を見学し当時の状況を目の当たりにしたことで、私達がすべきことは何か考えさせられました。

私だけではなく世間でも戦争への意識の低下は進みつつあるように感じます。経験された方が少なくなっているのも事実です。こうした現状のある今、戦争がどれほど悲惨なのか考えることはとても大切だと思います。

「戦争はしてはいけない」と言うだけなら簡単です。しかし、平和を作り上げるのはとても難しいことだと思います。今年、広島を訪問したオバマ大統領は演説で「人間の悪をなす能力をなくすことはできないかもしれない」と話していました。テロなどの事件も起きます。どれも解決するのは難しく、時間がかかることだと思います。オバマ大統領の言葉にあるように完全な平和を作るのは難しいのかもしれませんが、しかし、オバマ大統領は同じ演説の中で「私達は学び選ぶことができる。」ということも話しています。私達は戦争という過去から色々なことを学び、私達がすべきことを考えていけるのです。

起こしてしまった過去の戦争を今となってはどうすることもできません。戦争で犠牲になった人々ももう帰ってはきません。しかし、今から未来を変えていくことは可能です。戦争で悲しむ人を減らしていくことはできるのです。そのために今私達ができることは戦争から目をそむけないことだと思います。それは戦争について学ぶことであり、平和について考える

★部活動や学校外活動	美術部・国際福祉活動部
★好きな科目	国語・英語・社会
★好きなことや好きなもの	野球観戦・音楽鑑賞
★将来の夢	責任感のある大人になりたい

ことだと思います。そしてまた、今ある幸せを大切にすることでもあると思います。それは決して難しくはないはずです。一人一人がこのようなことを意識するだけでも平和な世の中に近づくのではないのでしょうか。

戦時中、戦禍を逃れた人々も死と隣合わせの生活におびえながら過ごしていました。戦争で兵士として人を殺す立ち場にあった人たちにも家族、友人など大切な存在があったはずです。大切な人を残し、戦争で人を殺すことがつらくないはずがありません。どんな人にとっても残酷で悲惨なものだったのです。

戦争によって生まれるものは悲しみだけだと思います。悲しみを繰り返さないために私達が多くの人に戦争から学んだことを伝え、多くの人が平和を意識することが大切です。毎日感じられるささいな喜びや楽しみがどれだけ幸せなことなのか考えていくことも大切です。平和について考えられたら、戦争を世の中から遠ざけられるのではないのでしょうか。

「たゆまぬ努力によって、悲劇の起きる可能性を減らすことができる」というオバマ大統領の言葉のように私達が未来に向けて、努力をしていこうと思います。





優良賞

「便利」って本当に良いこと？

学校法人暁学園暁中学校3年

木村優奈

あなたは、便利になることが良いことだと思いますか。そう聞けば、きっと多くの人が良いことだと答えるでしょう。確かに、便利になることは、仕事や作業が楽になる、好きなように使える時間が増えるなど、とても魅力的なことと言えます。では、世の中が便利になれば、私たちの生活はもっと幸せなものになるのでしょうか。

私は、便利になっても幸せな生活は手に入らないと思います。そう考える理由は2つあります。第一に、便利になると自分の頭で考えなくなるからです。1つ例を挙げてみましょう。たとえば、電卓は、数式を打ちこむだけで計算ができ、とても便利です。しかし、計算をするときに電卓に頼ってばかりいると、自分の頭で計算をしなくなり、計算力が落ちてしまいます。やがて電卓がないと計算ができなくなり、日常生活に支障が出るかもしれません。自分の頭で考えなくなると、持っていたはずの能力を失うことにもなるのです。

第2に、便利になると、人と接する機会が減ってしまうことがあるからです。スーパーやコンビニで買い物をする様子と、商店街で買い物をする様子を思い浮かべてみて下さい。何が違うのでしょうか。それは会話の中身です。スーパーやコンビニでの会話は、「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」といった事務的なものです。一方、商店街では、「今日は良いお天気ですね」などといった話をすることもあります。その会話は、買い物とは関係がないものだと思うかもしれません。しかし、私はその会話はとても大切なものだと思います。なぜなら、そのような会話を取り入れることで、客が店員に親しみやすくなるからです。店員と客の距離が近づくと、店員に対する感謝の気持ちが自然と芽生え、買い物がよりいっそう楽しくなるでしょう。それに対して、スーパーやコンビニではそのような会話がなく、店員と客の距離が近づくことはほとんどありません。スーパーやコンビニは営業時間が長く、商品の種類が多いためとても便利ですが、店員に対する感謝の気持ちや、買い物の楽しめといったものは生まれにくいのではないのでしょうか。

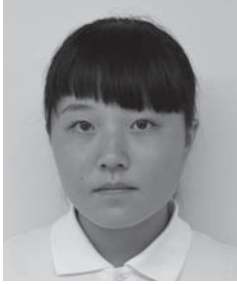
しかし、便利になるということは決して悪いことばかりではありません。最初に述べたように、仕事や作業の負担が減る、時間を有効に使えるといった良い面もあります。だから、便利で快適な生活を実現しつつ、自分の頭で考える機会や、人と接する機会を失わないようにすることが大切なのです。そこで、皆さんにやってみてほしいことがあります。それは、普段の生活の便利さや、人との交流の大切さを学ぶ体験をすることです。たとえば、掃除機の代わりにほうきとちりとりを使って掃除をしたり、部屋の明かりを消してろうそくの火だ

★部活動や学校外活動	硬式テニス部
★好きな科目	英語
★好きなことや好きなもの	読書・テニス
★将来の夢	医師

けで夜のひとときを過ごしたりといった体験は、普段の生活がいかに便利であるかを知る手がかりになります。また、近所の人に挨拶をする、町で困っている人に声を掛けてみるなどの体験も、人と交流することの大切さを学ぶのに役立ちます。そのような体験は、きっと私たちの生活をもっと幸せなものにしてくれるでしょう。

今、私たちの身の回りには、全自動の洗濯機や携帯電話など、便利な物がたくさんあります。それらの物は、私たちの生活を豊かにし、支えてくれています。しかし、そういった物に頼り切っていては、自分の頭で考えることや人と接することをやめ、人間らしさを失ってしまうでしょう。そうならないために、便利な物は頼りすぎない程度に活用したいものです。生活が便利になった今こそ、考えることや人と接することの大切さを改めて見直してみませんか。





優良賞

私にもできること

多気町松阪市学校組合立多気中学校3年

なか にし か りん
中 西 花 梨

2015年9月9日から11日にかけて発生した平成27年9月関東・東北豪雨。茨城県常総市付近では、鬼怒川の数か所で越水や漏水、堤防の決壊が occurred。これにより、常総市では鬼怒川と小貝川に挟まれた広い範囲が水没しました。全壊・半壊した建て物は約4千棟、床上・床下浸水した建て物は、約1万2千棟にも及んだそうです。テレビでは何度も何度も繰り返し、街を流れる水や救助された人、変わり果てた街の姿に呆然とする人の様子が放送されました。私も目を疑うような光景に、愕然としたことを覚えています。

「私にも何かできることはないだろうか。」ちょうどシルバーウィークだったこともあり、私は父と一緒に水害復旧のボランティアに参加しました。ボランティアセンターには、千人以上の人が並んでいました。私は全国各地からこんなにたくさんの人が常総市に駆けつけたことに、不謹慎ですが、なんだか嬉しい気持ちになりました。

1日目。被害に遭われた方の家の中を片付けました。初めての復旧ボランティア活動だったこともあり、部屋の中に入って、まず、声が出ませんでした。部屋は既に水が引いていましたが、私の腰の高さまで泥水の跡が付いていました。本やアルバムなども濡れて部屋中に散乱していました。想像を絶する程の被害でした。畳は泥や水を含み色に変色し、重さは普通の畳の何倍もの重さでした。私を入れて四人で一枚の畳を運ぶのがやっとでした。畳一枚一枚の重さにボランティア、人手の必要性を痛感しました。

2日目。初日とは別の方の家の窓や床などを拭きました。泥水に浸った窓や床は何度拭いても、すぐに土が浮かび上がってきます。作業を始めたすぐには、きりが無いのではと思うほどでした。しかし、丸一日をかけて磨き上げた窓や床はもう泥など残っていませんでした。夕日に照らされた綺麗になった家の中を見て、とても嬉しくなりました。

3日目。炊き出しのチラシを一軒一軒配って回りました。百軒近く回りました。その中には外国の方もみえました。その地区はブラジルの方がたくさんみえたので、ポルトガル語のチラシも用意してありました。異国の地で大災害に遭遇し、言葉もあまり分からず、不安だったのでしょう。そのチラシを涙を流しながら受け取ってくれた年配のブラジル人の女性がいました。その涙を見て、こんな私でも人の支えになれたのかも少し、ほんわかった気持ちになりました。

実際に自分の目で見て感じた常総市の様子とテレビで見ていた様子は、あまりにも違い過ぎました。テレビで見ていたときは、どこか遠くの出来事のように思っていたのですが、実際

★部活動や学校外活動	卓球
★好きな科目	社会科
★好きなことや好きなもの	読書
★将来の夢	保育士・教師

には、普通の人が普通に生活している中で起こった大惨事なんだと気付きました。私は今回ボランティア活動に参加して、今まで以上に自然の脅威と災害の恐ろしさを実感した気がします。

ボランティア活動とは、対価を求めず、誰かのためにという気持ちだけです、行いです。この世で最も素晴らしい行いの一つかもしれません。みんなが一生懸命、取り組み、一緒に汗を流すということで連帯感も生まれてきます。活動が終わった後に、家の方に「ありがとう。」と言われると、何とも言えないすがすがしさがありました。私にとっては最高の報酬でした。ボランティア活動で一番嬉しかったことは、自分が誰かのために一生懸命になっていると思えたことです。自分には、こんな一面があったのだということを再発見できました。

私たちが住んでいる三重県も30年以内に南海トラフ巨大地震が起こるのではないかと予想されています。こういう世界で生きている私たちだからこそ、互いに助け合い支え合って生きていかなければなりません。私たち一人一人の力は、微力でもたくさんの人の力が集まることで大きな力へと変わっていくのです。私はこれからも、「私にもできることはないだろうか。」と常に自分自身に問いかけながら、過ごしていきたいと思います。





優良賞

マスコミの報道の仕方

名張市立北中学校2年

もり
森

じゅんのすけ
準之典

熊本の地震の時、土砂に埋もれた人を助けるために、自衛隊員やボランティアの人たちが必死に土を掘っていました。その様子をテレビで見た時、「何かおかしい」と思いました。

救助する人より、はるかに多いマスコミがテレビカメラをかまえ、救出される瞬間を今か今かとまちかまえていました。空には、絶えずヘリコプターが大きな音とともに周囲を飛んでいました。救出活動を行っている人は土砂からでてきた死体を隠すために、ビニールシートで見えないよう囲っていました。しかも、ビニールシートを持つ人達の人数は、スコップで土を掘る人よりもはるかに多かったのです。僕は、マスコミのカメラがなかったら、救助隊員が全員で救出活動を行う事が出来、もっと早くに多くの命を助けることが出来たと思いました。

そしてもう一つ、僕は、どうしても許せないと思った出来事があります。ニュース番組で、被災者の生の声を届けようと、キャスターが、送られてきたファックスを読んでいた。熊本に住んでいる女子高生の訴えた内容はこうでした。『自分の家の近所に、地震でくずれ今にも倒壊しそうな家がある、余震の続く中、次の揺れで倒れる瞬間を撮ろうと家の前でマスコミが待ちかまえている。つらいのでやめてほしい。』僕はそれを聞いた時、地震が起こり悲しんでいる被災者を、さらに苦しめ精神的苦痛をあたえる、マスコミの報道のしかたは、罪だと思いました。

しかし、今この状態を知ることができたのは、マスコミのカメラのおかげでもあるのです。マスコミが私達がとうてい入ってはいけない所や危険な所に入り取材をし、それを放送することにより、その現場の状況や雰囲気分ります。たとえば地震の時、どんな被害があったかや、町がどのような状態になっているのかなどの正確な情報が分かります。そして、この状況をふまえての予想や対策を立てることができます。災害にあい困っている人を映すことによって、寄付金やボランティア活動などの支援も広がります。そう考えると、マスコミの報道は、なくてはならないものでもあったと感じました。

ありとあらゆる情報があふれている今、情報を受けとる側は、より過激な映像を求めています。その映像が衝撃的であればあるほど反響があり、視聴率が上がります。それが、どんどんマスコミの報道をエスカレートさせているのではないかと僕は思いました。そう考えると、テレビを見てマスコミの報道の仕方を感じ許せないと思ったことは、実は僕たちが大きく関わり、作り出してしまったことなのかもしれません。その事実気付いて、僕は知らな

★部活動や学校外活動	サッカー部・テニスクラブ(学校外活動)
★好きな科目	数学・社会
★好きなことや好きなもの	映画鑑賞
★将来の夢	幸せに生きる事

い所で人を傷つけることがあるということに気がしました。とてもショックでした。

報道の仕方にはルールが必要であると同時に、それを受け取る側にもルールが必要だと思いました。映して良いこと、悪いこと、最後の一線を越えない報道とは、どういうものなのでしょう。僕が思う最後の一線を越えない報道とは、「撮られる側の味方であること」ではないでしょうか。たとえば被災地であれば、車ではとても入れない所や支援が届かない所を映しに行く時に、リュックサックの片隅に入る分だけでいいので、マスコミ一人一人が食料や薬などを届けることができないのでしょうか。現地の人の要望や困っている事を行政に伝えその問題を解決するための重要な役割を果たせるのではないのでしょうか。

そして、そのためには、情報を受け取る側の僕たちが、報道の仕方、マスコミのあり方を真剣に考えていかななくてはいけないと思いました。テレビの中に映っている出来事は、実際に今、起きている現実なのです。テレビの中の出来事がいつ自分に起こってもおかしくありません。その時、自分はどう感じるのかを、当事者の立場で見て、考える事が大切だと思いました。そして、ただ、テレビを見て「おかしい」と思っているだけでも、行動しなければ誰にも伝わりません。

報道する側、受け取る側お互いが意識を高めあい、人を傷つける報道ではなく、困っている人を助けられる報道を、みんなで、社会全体で作らなくてはならないと思いました。





優良賞 僕の大切な弟

菰野町立八風中学校3年

もろ じゅん
諸 岡 隼

僕には3人の兄弟がいます。上に一人、下に双子の弟がいます。弟のうちの一人は体に障がいがあり、「あたりまえ」のことができません。おしゃべりをしたり、一人で食事をしたり、トイレに行ったり、行きたい所に歩いていくこともできません。だけど僕はそんな弟が大好きです。

この世の中には、障がいがある人を差別する人がいますが、もし、自分が差別の対象だったらどう思うでしょうか。「差別をされるのはいやだ。差別を無くしたい。」と思う人が多いと思います。障がいのある人は、「障がいのある人になりたい」と思ってなったわけではありません。ですが、障がいのある人は、その人なりにたくさんの努力をして、少しずつ「できること」を増やしていています。

そんな障がいのある人たちへの配慮が最近多くなってきたなと思います。

例えば、「おもいやり駐車場」というカードがあります。これは三重県がつくった、車いすなどを積んだ車を表すカードです。三重県内の大きなスーパーや施設の車いす駐車場で使うことができ、これを車のミラーにかけておくと、「この車には車いすがのっている」ということがすぐ分かります。逆に、車いす駐車場を使わなくてもいい車が停まっていると、「この車はカードがないから、普通の人が乗っている車だな」ということもすぐ分かってしまいます。

このカードのおかげで、車イス駐車場を使える時が多くなって、とても助かっています。

しかし、まだまだ大変な思いをしなければならない場所があります。

僕は去年の夏休みに東京へ行きました。東京の地下鉄に乗って、駅で乗り換えをしようとしたとき、エレベーターやスロープが無い所がありました。このとき弟は車いすに乗っていたので車いすごと持ち上げて急な階段を上らなければいけませんでした。また、スロープがあっても急になっていたり、階段があるのにエレベーターを使う人たちが多く、なかなかエレベーターの乗れないということもありました。

他には、車いすのマークのトイレが少なく困っています。最初に書いたように、弟は自分でトイレに行くことができません。なので、紙オムツをはいているのですが、広いスペースがあるトイレでないと替えることができません。大きなサービスエリアやパーキングエリアにはあるのですが、ファミリーレストランなどの店には少なく、とても困っています。

僕は弟への手助けを毎日しています。いつも大変な作業ではありますが、少しの配慮があ

★部活動や学校外活動	男子ソフトテニス部・生徒会
★好きな科目	理科・英語・技術
★好きなことや好きなもの	ゲーム・野球観戦・音楽鑑賞
★将来の夢	エンジニア

るだけで、作業が楽に行えて、とても助かっています。そんな配慮を世の中にもっともっと設置して、障がいのある人たちに今より苦しいことが少なくなるようにしてほしいです。

僕には弟と一緒にしたいことが2つあります。1つ目は「弟と一緒に散歩をしたい。」2つ目は「弟と楽しくおしゃべりをしたい。」ということです。この「歩けるようになる」「話せるようになる」ために弟は毎日特別支援学校に行って訓練をしています。そんな弟を、僕は「兄」として、「家族」としていろいろなところをサポートしていきたいです。弟は今日も訓練をがんばっています。



審査委員の講評（順不問・敬称略）



【審査委員長】 駒田 美弘（国立大学法人三重大学 学長）



中学生のメッセージ2016（第38回少年の主張 三重県大会）には、今までで最も多い11,921人の中学生が、それぞれの気持ち、意見を詰め込んだ作文を応募されました。そのテーマも、社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案、家庭、学校生活、地域活動、身の回りや友達との関わり、テレビ、新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見、感想、提案等、多岐にわたっています。一人一人の中学生が日頃感じていることや考えていることを訴えることにより、自分自身の生き方、社会との関わりを考えるととてもよい機会になったと思います。

今回も、多数の応募者の中から第一次審査、第二次審査を経て、地域優秀者12人が選ばれ、三重県大会では、作文の論旨、発表の論調・態度について審査が行われました。

地域優秀者12人の作文の論旨に関する審査委員の総評

- 身近なテーマだと、自分の言葉を使いやすく、気持ちや意見が伝えやすい。
- 社会問題を取り上げている作文は、論旨がしっかりとしている。
- 作文の文字のうまい下手は審査対象外ではあるが、多くの作文が丁寧に書かれている。
- 論旨としては、個人の体験にと止まらず、一般性・社会性が在ることが必要です。
- 応募作文は、所属の中学校の先生の手が入っていないくて、自分自身の思いの詰まった文章である。

地域優秀者12人の発表に関する審査委員の主な意見（発表順）

1. 「思いやり」ってなんだろう（伊藤悠奈さん）

「お年寄りを若者が支える」ために、思いやりを持って接するという優しい気持ちがよく伝わってきました。

2. 「真の平和の実現に向けて」（梅田 颯さん）

作文原稿を読んでいましたが、ちらちらと聴衆を気にして目を向ける動作があり、自分の考えを何とか伝えたいという気持ちが現れていました。

3. 「当たり前」ではなく（織田 光里さん）

落ち着いて、文章の最後まで丁寧にしっかりと話すことができおり、とても聞きやすい発表でした。

4. 平和を考える（紀平 恵梨子さん）

少し緊張をしていましたが、あらかじめ発表の練習をされていたのか、話し方には抑揚があって、主張がよく伝わってきました。

5. 「便利」って本当に良いこと？（木村 優奈さん）

視線を聞いている人の方へ向けて、話しかけるような発表でした。聞きやすく、心のこもった発表でした。

6. すべきことをできるようにするために（島 裕乃さん）

発表の練習を十分にされていたように思います。商品を見せたりしながら話しかけており、説得力のある発表でした。

7. 私にもできること（中西 花梨さん）

とても元気な、力強い声で話をされており、活動的な中学生らしい発表のように思いました。

8. 世界に和の心を広げるために（中西 百音さん）

「うれしい」、「美味しい」といって言葉を話す時にすてきな笑顔が溢れました。お茶碗の説明の時などに身振り、手振りを入れながらの気持ちのこもった発表でした。

9. 「伝えたいこと」（中前 純奈さん）

中学生らしい素直な言葉を用いながらも、感性の豊かさ、心の優しさ、力強い主張がよく伝わる内容であり、発表の論調・態度も、聞いている人の心に感動を与えるすばらしいものでした。

10. 憎しみを憎しみで返さない（間瀬 萌々子さん）

テロ行為を取り上げた作文の内容で、人間の心の強さの素晴らしさを力強く話されました。聞いている人に十分に伝わりました。

11. マスコミの報道の仕方（森 準之典さん）

マスコミの役割を見る側の責任も入れ、広い見地から話されました。とても説得力のある発表でした。

12. 僕の大切な弟（諸岡 準さん）

弟を大切に思う気持ちがとてもよく伝わってきました。兄としての逞しさも感じる発表でした。

いずれの作文・発表も素晴らしく、聞いている多くの人に感動を与えるものでしたが、その中から規定に従いまして、最優秀賞1名、優秀賞3名、優良賞8名を決めさせていただきました。

最後に、主催者の三重こどもわかもの育成財団、三泗地区中学生のメッセージ実行委員会、国立青少年教育振興機構をはじめ、当日の運営に参加・担当をしていただいた開催地区の中学生のみなさん、地域の教育委員会、教育・学校関係者の皆様等、多くの方のご支援ご協力をいただき、中学生のメッセージ2016が準備、開催され、素晴らしい成果をあげられましたことに敬意を表したいと思います。

【審査委員】 間野 丈夫（三重テレビ放送株式会社 取締役）



「弟は今日も訓練をがんばっています」。菰野町立八風中学校三年の諸岡隼さんの発表は、この一言で終わっています。ここから私たちはさまざまことを想像します。今日、私たちは少年の主張県大会の会場にいて、発表を聞いている。その時、隼さんの障害のある弟は、特別支援学校にいて、懸命に歩いたり、話したりする訓練をしている。隼さんは、そんな弟と一緒に散歩したり、楽しくおしゃべりしたりしたいと願っている。簡潔な一言ですが、深い意味を宿し、心を打ちます。世界にある貧困や争いなどによる悲劇を、少しでも減らしていくために大切なのは、他者を思う想像力です。みなさんの発表は、戦争やテロ、災害の犠牲者、被害者の心に思いを寄せたり、「当然」「良いこと」と考えられがちなことに疑問を示したりと、想像の羽を広げ、私たちはどう生きるべきかについて示唆を与えてくれました。相手の側に立って考える柔軟な想像力を、これからも大切にしてほしいと願っています。

【審査委員】 岡村 昌和（三重県健康福祉部子ども・家庭局 局長）



三重県子ども条例の基本理念の一つに「子どもの力を信頼すること」というものがあります。今回の中学生のメッセージもそのことを示すような素晴らしい大会となりました。

発表された皆さんには、自分のこれまでの体験をしっかりと受け止め、これからの行動や生き方につなげていくという強い意志が感じられました。まさに会場近くにそびえる鈴鹿山脈のようにたくましく、みずみずしいものばかりで、三重県の将来に希望を感じさせてくれるものでした。

大会では、発表された方だけでなく、ポスターを含め応募いただいた全ての皆さん、吹奏楽や運営で参加いただいた全ての中学生の皆さんの若い力に元気をもらいました。

皆さんにはこれからもこの気持ちを忘れず、たくましく未来を切り開かれることを期待しています。

【審査委員】 小林 克彦（朝日町教育委員会 教育長）



大人になる過程の中で、中学生たちは数多くの経験を重ねます。悩み、怒り、悲しみ、そして喜び…中学生たちはそこから生まれる葛藤や感動を礎にして成長していきます。

8月27日に菰野町民センターで行われた「第38回少年の主張三重県大会」

そこにはたくさんの感動と勇気と強い思いがあふれていました。

開会式では緊張している様子だった発表者の皆さんも、いざ舞台に立つと、落ち着いて自分の思いを発表し、その堂々とした姿に驚かされました。

社会において自分たちが果たすべき役割についての提言、将来の夢や希望など、自分と他者や社会とのかかわりを見つめ直し、誰もが社会の一員であるという意識を強く持つ姿がそこにあり、感銘を受けました。客席にも、多くの方々が応援に訪れ、皆さんの素晴らしい発表に真剣に聴き入り、盛大な拍手を送っていました。

今回のこの経験が、将来きっと大きな力、大きな宝となることを祈念いたしまして、感謝の言葉を送ります。ありがとうございました。

【審査委員】 室谷 隆子（三重県小中学校校長会 幹事〈熊野市立入鹿中学校 校長〉）



会場に着くとすぐにすてきな中学生が審査会場まで案内してくれました。その態度の気持ちよさに、今日一日すてきな出会いがたくさんあるだろうと期待がふくらみました。発表者の12名の皆さんは、とても堂々と自分の想いを伝えてくれました。直接、顔を見て抑揚のある声で伝えていただき、「あーそうだったのか。」と思わず声が出そうになりました。新聞の記事から考えたことや、三重県で行われたサ

ミットから考えたこと、家族のことから訴えたいこと、自分が長年習ってきたことから伝えたいことやボランティアをした経験から訴えたいことなど見たこと、聞いたこと、体験したことなどをしっかりと受け止め、深く考え、自分の決意として発信してくれました。本当に中学生の皆さんの「深く考える力」や「発信力」に感動します。今、手元には作文もメモ用紙もありますが、皆さんが伝えてくれたことが心に残っています。ぜひ、これからも感じたことやこうしたほうがいいと思うことをどんどん発信してください。あなた達の力で大人や社会を動かすことができると今日の発表を聞いて思いました。最初の期待以上にたくさんのすてきな出会いがありました。発表してくれた皆さん、スタッフとして活躍してくれた皆さん、デザイン画で盛り上げてくれた皆さん、合唱でみんなの心を揺さぶってくれた皆さん本当にありがとうございました。

【審査委員】 駒田 昌彦（三重県PTA連合会 理事）



今回PTAの関係もあり審査委員を務めさせていただきましたが、こういった大会が毎年開催されていることも初めて知り、新鮮な気持ちで発表者のメッセージを審査させて頂きました。中学生の皆さんそれぞれが感じているテーマについて明確な意思をもって述べられている事に感動しましたし、また中学生にして堂々と発言する姿にも頼もしさを感じました。

審査委員として一番感じたことは、文章だけを読ませていただくのと実際に本人の声で・表情で・ジェスチャーでメッセージを聞くのでは、ずいぶん伝わり方が違うのだなということです。この発言力の重要性こそこれからの未来に必要とされる自主性・コミュニケーション力を養うことにも繋がるのではないのでしょうか。

最後に私自身、本当にいい経験をさせていただきありがとうございました。

【審査委員】 長野 耕治（三重県私学協会〈学校法人エスコラピオス学園海星中学校 国語科主任〉）



生徒の作文を添削することはあっても、作文に順位をつけるということは、今までしたことがありませんでした。今回、審査委員のお話をいただき、14編の作文を事前に読み、正直、私は途方に暮れました。「どうやって順位をつけたらよいのだろう？」

もちろん、誤字や小さなミスはたくさんある文章です。しかし、それが逆に大人の手が入っていない、まっすぐなメッセージとして響いてきます。「大変な仕事を引き受けてしまったぞ！」

悩みに悩んで迎えた当日、発表者の生の声を聞き、文字だけでは読み取れなかった言葉の意味や思いが伝わってきました。私たちも全力で各賞を決めました。本当に大切なのはこのメッセージをもっとたくさんの人の心に届けること。みなさんならきっとできると確信しております。

【審査委員】 小林 静子（三重県教職員組合 中央執行副委員長）



14人の応募作品は、どれも豊かな感性と純粋な感覚で課題をとらえてあり、中学生のみなさんの真摯な姿勢に感動しました。テーマは身の回りの問題から、社会全体、ときには世界的な課題となっていることまでさまざま、その課題解決のために自分ならどう考え、どう行動するか、そしてその先の未来を自分はどうしたいのか、一人ひとりのメッセージが聞いている私たちの心に熱く響いてきました。

このメッセージが一人でも多くの人たちに届いてほしいと思います。そして、メッセージを胸に、子どももおとなも、みんなで自分たちの社会を、未来をつくっていきましょう。

最後に大会を支えていただいた多くの中学生のみなさん、実行委員のみなさん、本当にありがとうございました。

【審査委員】 水元 正（公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長）



障害者差別解消法が平成28年4月1日から施行されたのを受けて、障害者に対する考え方自分の思いを多くの発表者が自らの体験により訴えて感銘を受けました。

また、今年5月伊勢志摩サミットが開催された事からか世界平和を訴え、どうしたらいいのか提案もされていた事。

そして、4月の熊本大震災から豪雨などの自然災害での自らのボランティア活動を通してその思いを訴え、マスコミ等の在り方をも自分の考えを示してくれて非常に良かったです。

今年も中学生もメッセージが中学生だけでなく発表者の発表により非常に大きな感動をみんなに与えてくれました。感謝申します、ありがとう。

会場の運営等中学生の皆さんが気配り、目配り大変だったと思いますが、素晴らしい経験、体験をされ、盛り上げていただき本当にありがとうございました。感謝感謝です。

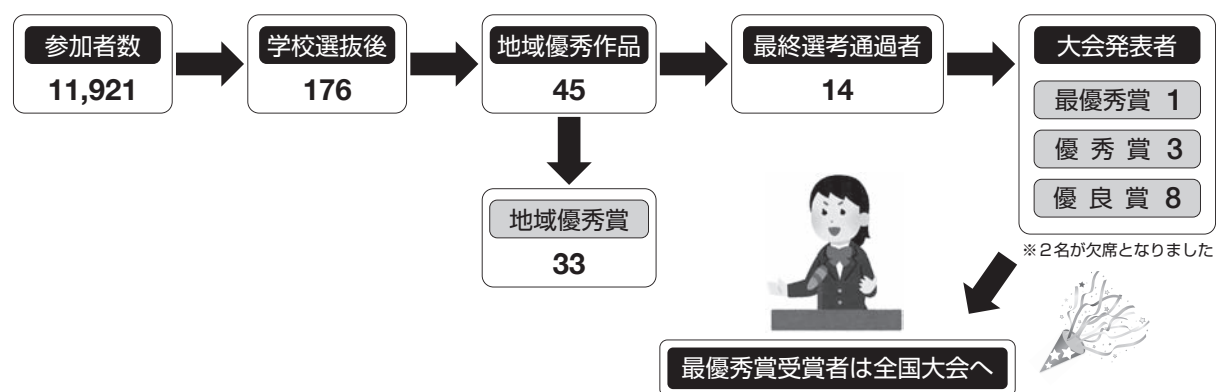
大会概要及び審査基準

1 応募の状況

(1) 応募者数

地区名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
北 勢	4,734	3,519	6,717	3,772	7,985
津	373	778	462	327	766
松 阪	3,502	603	533	534	545
南勢志摩	290	277	247	255	226
伊 賀	1,560	2,027	1,835	2,009	1,926
紀 北	290	359	360	291	303
紀 南	328	225	197	697	170
計	11,077	7,788	10,351	7,885	11,921

(2) 選考の過程



2 審査基準及び審査委員

(1) 審査基準

1・2は第1次審査会及び第2次審査会の応募作品の審査基準

1・2・3は三重県大会の審査基準

1 【論旨】

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。(中学生らしさ)
- ② 新しい情報や視点があるか。
- ③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

2 【論調】

- ① 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
- ② 説得力のある話し方であるか。
- ③ 話しぶりに熱意と迫力があるか。

3 【態度】

- ① 聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。
- ② 聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

(2) 審査委員の皆様

審査委員長	駒田 美弘	国立大学法人三重大学 学長
審査委員	間野 丈夫	三重テレビ放送株式会社 取締役
	岡村 昌和	三重県健康福祉部子ども・家庭局 局長
	小林 克彦	朝日町教育委員会 教育長
	室谷 隆子	三重県小中学校長会 幹事(熊野市立入鹿中学校 校長)
	駒田 昌彦	三重県PTA連合会 理事
	長野 耕治	三重県私学協会(学校法人エスコラピオス学園海星中学校 国語科主任)
	小林 静子	三重県教職員組合 中央執行副委員長
	水元 正	公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長



3 地域優秀賞受賞者一覧

No.	学 校 名	学年	名 前	タイトル
1	桑名市立成徳中学校	3	渡 邊 美 月	理解しようとする心
2	桑名市立明正中学校	3	伊 藤 誓 秀	近所の関わり大切さ
3	桑名市立陽和中学校	2	こ 森 あゆみ	高齢者問題について
4	東員町立東員第二中学校	2	やま なか そう ま	広島でかわした約束
5	四日市市立港中学校	3	いし だ なる み	バナナ売りの少女から学んだこと
6	四日市市立南中学校	2	村 上 まいか	いじめについて思うこと
7	四日市市立西笹川中学校	2	よし かわ り り	私と障がい者
8	四日市市立桜中学校	2	伊 藤 の あ	なぜ勉強をするのか
9	四日市市立桜中学校	3	かや みょう さ え	嘘がもつ優しさ
10	四日市市立楠中学校	2	つい き とう こ	私たちとネット社会
11	学校法人暁学園暁中学校	3	はや かわ み ほ	責任のある行動
12	学校法人暁学園暁中学校	3	もり 楓 ふう か	集団での行動
13	菰野町立菰野中学校	3	お 小 川 みゆき	少しの勇気をもって
14	朝日町立朝日中学校	3	ほり ぐち はる 悠	救われるためにすべきこと
15	川越町立川越中学校	1	こま だ さ き	「人との関わりの中で」
16	鈴鹿市立神戸中学校	3	すぎ もと あかり	言葉の力について
17	鈴鹿市立鈴峰中学校	3	いけ だ ひ より	我が家の一コマ
18	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	3	いち かわ は な	身近な貧困
19	鈴鹿中学校	1	うえ 村 りん た	「ゆとり教育 詰め込み教育」
20	鈴鹿中学校	3	あか ぎり か のん	ホテルの接客に求められるもの
21	津市立東観中学校	2	わか ばやし まな か	命の重さ
22	津市立久居東中学校	2	にし 村 りん のり	進化する未来に向けて今できること
23	津市立一志中学校	2	おか やま たく み	便利さの中身
24	三重大学教育学部附属中学校	3	にし かわ りょう	会話で感じる、会話で繋がる
25	セントヨゼフ女子学園中学校	3	かわ かみ ひ なの	世界に目を向ければ
26	松阪市立大江中学校	2	ひら 井 ま な	「保育士も園児も安心できる日本へ」
27	皇學館中学校	3	た なか あん な	「日本の未来を背負う者として」
28	皇學館中学校	3	にし い ち こ	「皆に、世界に、out put」
29	名張市立名張中学校	3	まつ みや ち か	夢を持つということ
30	名張市立北中学校	3	なか さか もえ り	社会の現実
31	尾鷲市立尾鷲中学校	2	くす 楠 えみ る	笑顔
32	紀北町立潮南中学校	3	たか はし りく	あいさつについて
33	御浜町立御浜中学校	3	さか ぐち み き	私にとっての友達

4 学校奨励賞受賞校一覧

No.	学 校 名
1	桑名市立成徳中学校
2	桑名市立明正中学校
3	桑名市立光風中学校
4	四日市市立橋北中学校
5	四日市市立港中学校
6	四日市市立塩浜中学校
7	四日市市立富洲原中学校
8	四日市市立富田中学校
9	四日市市立笹川中学校
10	四日市市立西陵中学校
11	四日市市立大池中学校
12	四日市市立朝明中学校
13	四日市市立保々中学校
14	四日市市立三重平中学校
15	四日市市立桜中学校
16	四日市市立内部中学校
17	四日市市立楠中学校
18	海星中学校
19	菰野町立菰野中学校
20	朝日町立朝日中学校
21	川越町立川越中学校
22	鈴鹿中学校
23	津市立一志中学校
24	松阪市立大江中学校
25	多気町松阪市学校組合立多気中学校
26	多気町立勢和中学校
27	皇學館中学校
28	鳥羽市立加茂中学校
29	名張市立名張中学校
30	名張市立赤目中学校
31	名張市立桔梗が丘中学校
32	名張市立北中学校
33	名張市立南中学校
34	紀北町立赤羽中学校
35	紀北町立三船中学校
36	御浜町立御浜中学校

※学校奨励賞は、積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50%以上）が受賞されました。

大会メモリアル

菰野町町民センターホール 2016.8.27

9:00 運営協力中学生が全員集合しました。

当日の大会会場



9:30 朝の打ち合わせで、
運営協力中学生が
全員集合しました！

先生のコメント

みんなが注目して緊張
したと思うがよくがん
ばったね。

(菰野町立菰野中学校)



9:30 司会のリハーサル開始
緊張の中しっかりと練習しました



受付・案内リハーサル

10:30 発表者が到着



舞台上立って、ドキドキ...



事前説明に聞き入っていました



太田理事長より発表者へエールが贈られました

12:30 いよいよ受付開始!

会場入り口にステキなお花を添えてくれました!



気持ちのよいあいさつと笑顔でしっかりと受付をしてくれました。

先生のコメント

大人に対応することも社会勉強になりました。言葉はもちろんですが、温かい気持ちをもらえました。
(四日市市立桜中学校)

来場者のコメント

受付、案内等々気持ちの良い挨拶と笑顔でとても心地良かったです。

中学生が活躍!

今年も、中学生と大人が共鳴し心温まる大会になりました。

中学生のコメント

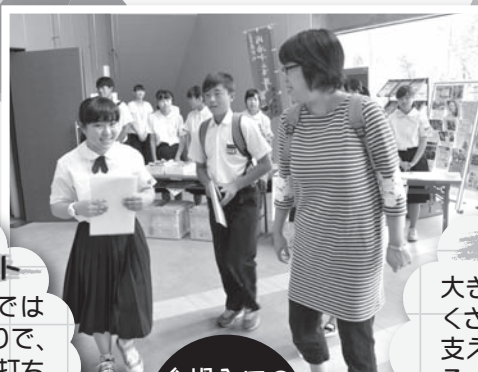
運営の仕事は普段の学校生活では経験できないものでした。お客様を気遣うこと、お礼を言ってもらえることの嬉しさなど、たくさんの気づきや学びが得られました。

(朝日町立朝日中学校)

中学生のコメント

前日のリハーサルでは周りは3年生ばかりで、緊張しましたがよく打ち合わせをしたので当日は連携してできました。

(川越町立川越中学校)



会場入口の
展示コーナー
にもご案内

先生のコメント

大きな舞台の裏には、たくさんの苦勞や、それを支えてくれる人たちがいる、そんなことを知ることができた貴重な機会であったと思います。

(朝日町立朝日中学校)

応援メッセージ展



「大人からの応援メッセージ展」知事をはじめ、協賛企業・団体様からの中学生への応援の言葉。

デザイン画展



142点の中から四日市市立朝明中学校3年 佐藤由季さんの作品がプログラムを飾りました。

中学生のコメント

今回は歌う機会をいただき、とても嬉しく、そして楽しく歌うことができました。

(学校法人暁学園暁中学校)

来場者のコメント

大変な練習をこなしたからこそだと思うがとても落ち着いていて素晴らしい。「感動」の一言です。

13:20 いよいよ主張発表!

胸に秘めた熱い思いを自分の言葉で発表してくれました。



14:50 合唱演奏で会場が一体に!



先生のコメント

中学生の想いのこもった素晴らしいメッセージを聞かせていただき、気持ちを伝えるという部分で、合唱や音楽と共通する部分が多く、部員にとって良い経験になったと思います。

(学校法人暁学園暁中学校)

大会メモリアル

駒田審査委員長による講評



感動を与える
素晴らしい
ものでした。

16:00

運営協力の中学生の皆さんへ
鈴木実行委員長から感謝状の贈呈。



次回開催南勢志摩地区、代表の大紀町青少年
育成町民会議大西会長にバトンが渡されました！

【司会・表彰アシスタント・受付・案内】
四日市市立桜中学校・菰野町立菰野中学校
菰野町立八風中学校・朝日町立朝日中学校
川越町立川越中学校

【合唱演奏】
学校法人暁学園暁中学校

【デザイン画】
四日市市立朝明中学校 3年 佐藤 由季さん

【デザイン画協力】
四日市市立中部中学校・四日市市立橋北中学校
四日市市立富洲原中学校・四日市市立大池中学校
四日市市立朝明中学校・四日市市立保々中学校
四日市市立常磐中学校・四日市市立羽津中学校
四日市市立西朝明中学校・四日市市立桜中学校
菰野町立八風中学校・朝日町立朝日中学校
川越町立川越中学校



只今、
厳正なる
審査中！

15:35 待ちにまった表彰式

表彰
アシスタントも
中学生！



先生のコメント

当日の二人のきびきび
とした所作。素敵でし
た！二人は本校の教育
理念「自他共栄」の立
派な体现者です。

(菰野町立八風中学校)



記念写真
発表者と運営参加協力として支えていただいた皆さん

中学生への応援メッセージ

中学生へ三重県知事様、三重県議会議長様、協賛企業・団体様から
あたたかい応援メッセージをいただきました

未来はこれから！
自分の力を信じて！
本気でチャレンジ！！

三重県知事 鈴木英敬

あなたの存在は
社会にとって大切なです。
今をしっかり生きて下さい。

三重県議会議長 中村進一

輝く未来をつかみ取れ！
未来に羽ばたくあなたを
応援します。

旭電気株式会社
代表取締役 前田光久

小さな夢 大きい夢
夢にむかって
あくなき挑戦！！

伊井運輸株式会社
代表取締役 伊井雅春

「今」を
大切にして下さい。

株式会社内田工業所

夢の種を蒔こう！

岡三証券株式会社松阪支店
支店長 田中伸二

人生は、夢だらけ。

株式会社 かんぽ生命保険三重支店
支店長 松井隆宜

未来ある君たちを
応援します。
夢をつかめ！

北伊勢上野信用金庫

夢に向かって進むあなたを
応援します。

小林建設株式会社

この経験を生かし、
輝く未来へ
進んでください。

菰野町菰野地区婦人会

苦しさをバネに、
力強く進め！
全力で君を応援する！

菰野町商工会
会長 秦辰次

夢と希望にむかって
汗を流せ！

菰野ライオンズクラブ
会長 柳昭広

今もこれからも
挑戦し続けるあなたを
応援します！

JAバンク

君たちには可能性という
いくつもの輝く未来がある。

新日本工業株式会社
取締役社長 九門明

第三銀行は
夢を追いかけるあなたを
応援します！

株式会社第三銀行

「できる」「できない」ではなく
「やる」「やらない」か。
限界をやぶり挑戦しつづけよう。

千巻印刷産業株式会社
代表取締役 塚本誠

人は人、自分は自分で
マイペース！

辻木材株式会社
代表取締役 辻伴壽

君たちには輝ける未来がある
夢は自分の手でつかみ取ろう

株式会社津松菱
代表取締役社長 西村房和

豊かな感性で未来を
切り開いていく
君たちを応援します！

東洋電機株式会社

「時間」は全ての人に平等です。
悔いのないよう「いま」を
大切にして下さい。

株式会社豊田工作所
代表取締役 寺本匡宏

輝く夢と未来を
応援します！

パイロットインキ株式会社
津工場長 太田義之

過去の事は、おじいさん、おばあさんに
聞きなさい。現在の事は、お父さん、
お母さんに感謝しなさい。未来の事は、
君が夢を抱き、創り上げてください。

株式会社ビコーインプレス
代表取締役 近藤伸悟

出来る限り多くの人とふれあって
ください。出会いが人を成長させ、
夢を持つことにつながります。
頑張れ！中学生！

株式会社藤工務店
社員一同

知恵は無限、
行動は実現である。

株式会社プラトンホテル
代表取締役 佐野貴信

我以外皆我師

有限会社松輝製網

夢にときめけ、
明日にきらめけ！

株式会社三重銀行

はばたこう
明るい未来へ！

公益社団法人三重県医師会

何にでもチャレンジ！
未来が開くその言葉

特定非営利活動法人
三重県歯科衛生士会

自分で自分を
ほめてあげてください。

三重電設株式会社
代表取締役 齋藤賢司

君たちは未来の宝
健やかに育て！

一般社団法人三重県薬剤師会

希望に向かって
自分の信じた道を

三重信用金庫

今やりたいと
思った気持ちを大切に！

有限会社柳モデル技研

敬称略、五十音順



応援メッセージは
大会当日に会場で
展示させていただきました！

協賛企業・団体紹介 ※五十音順

 旭電機株式会社 HAVE A GREAT FUTURE	 運送・車検・保険 伊井運輸 株式会社	株式会社 内田工業所	 岡三証券 OKASAN SECURITIES
人生は、夢だらけ。  かんぽ生命	 北伊勢上野信用金庫	 株式会社ぎゅーとら	小林建設株式会社
菰野町菰野地区婦人会	 菰野町商工会	 菰野ライオンズクラブ	 有限会社 ささき観光
 JAバンク	伝える喜び、これからも 新日本工業株式会社	 第三銀行	 CHIMAKI 低価格のコミュニケーションで未来を創造する
辻木材株式会社	 松菱	 東洋電機株式会社	 株式会社 豊田工作所
 PILOT	 商業施設の企画・設計・施工 株式会社 ビコーインプレス	 百五銀行 FRONTIER BANKING	株式会社 藤工務店
PLATON HOTEL YOKKAICHI	有限会社 松輝製網	 三重銀行	(公社)三重県医師会
 公益社団法人 三重県歯科医師会	 特定非営利活動法人 三重県歯科衛生士会	 三重電設株式会社	 (一社)三重県薬剤師会
 三重交通	 三重信用金庫	 有限会社 柳モデル技研	

本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。

参 考 資 料

中学生のメッセージ2016（第38回少年の主張三重県大会）実施要項

1. 目 的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日頃感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として実施します。

2. 主 催 公益財団法人三重こどもわかもの育成財団・三泗地区中学生のメッセージ実行委員会 独立行政法人国立青少年教育振興機構

3. 共 催 三重県

4. 協 力 青少年育成市町民会議

5. 後 援 三重県教育委員会・四日市市教育委員会・菰野町教育委員会・朝日町教育委員会 川越町教育委員会・三重県私学協会・三重県小中学校長会・三重県PTA連合会 三重県教職員組合・NHK津放送局・三重テレビ放送株式会社・株式会社中日新聞社

6. 大会期日・場所

期日 平成28年8月27日（土）

場所 菰野町町民センター ホール（三重郡菰野町福村871-2）

7. 応募資格

県内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある方。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、平成27年度在籍の3年生は応募できません。

8. 応募内容

①社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。

②家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど。

③テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

9. 応募方法

- （1）1人1点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議（以下、市町民会議という）等が主催する同様の大会において発表された作品は提出できます。
- （2）原稿用紙は、A4版400字詰め原稿用紙3枚半以上4枚半以下で縦書きに清書してください。※詳しくは、別紙1の原稿用紙記入方法を参照してください。
- （3）各学校等において3点以内に選考し、応募作品一覧（別紙2）を添付のうえ、下記提出先に提出してください。
- （4）応募作品一覧（別紙2）には、作文の基調となっている最も適当なテーマ1つを下記より選び記入してください。

基調テーマ分類

「友達」、「家族」、「福祉・障がい」、「学校」、「勉強」、「生命」、「文化・伝統」
「地域・社会」、「環境」、「職業・労働」、「政治・経済」、「国際」、「平和」
「防災」、その他（ ）

（5）提出先・提出期限

- ・各中学校等は、平成28年6月3日（金）までに当該地域の市町民会議に提出してください。市町民会議は作品を取りまとめ、6月8日（水）までに公益財団法人三重こどもわかもの育成財団（以下、育成財団という）へ提出してください。
- ・市町民会議の連絡先については、別紙3を参照してください。

10. 第1次審査会

第1次審査会は育成財団で行い、提出された作品の中から40人程度を選考します。

11. 第2次審査会

第2次審査会は育成財団で行い、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成し、提出された作品の中から「中学生のメッセージ」で発表する14人と地域優秀者26人程度を選考します。なお、発表者へは7月上旬に連絡します。

12. 三重県大会「中学生のメッセージ」

(1) 発表

- 大会発表者は「中学生のメッセージ」において、自らの作文をもとに発表します。また作文をもとにした発表方法に加えて、パフォーマンス（写真を使用したパネル説明や小道具を使用する等）を取り入れてもよいこととします。なお、準備の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。

(2) 審査

- 大会当日、青少年育成関係者、学識経験者、育成財団等で構成する審査委員会で審査を行い、各賞を決定します。
- 審査基準は以下の通りです。

【論旨】①鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）

②新しい情報や視点があるか。

③個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。

④提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。

⑤論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

【論調】①主張の内容が共感と感銘を与えているか。

②説得力のある話し方であるか。

③話しぶりに熱意と迫力があるか。

【態度】①聴衆をよく見て堂々と落ち着いて話せたか。

②聴衆との間合いを意識しながら話せたか。

第1次審査会及び
第2次審査会の
審査基準

三重県大会の
審査基準

(3) 表彰

- ①三重県大会の審査委員会で審査のうえ、「最優秀賞」（1人）、「優秀賞」（3人）、「優良賞」（10人）を決定し、賞状と副賞を贈呈します。
- ②大会発表者以外の地域優秀者には「地域優秀賞」として、賞状と副賞を贈呈します。
- ③積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50%以上とする）に「学校奨励賞」として、賞状と副賞を贈呈します。なお、作品応募者全員には、参加賞を贈呈します。

13. 「少年の主張全国大会」への推薦

「中学生のメッセージ」の最優秀者は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者として推薦されます。中部・近畿ブロック審査（作文・音声審査）でブロック代表者（各ブロック2～3人）に選ばれた場合は、東京都で開催される「少年の主張全国大会」において発表していただきます。

14. その他

- (1) 応募作品の返却はしないのでコピーをして保管してください。
- (2) 大会前、育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。同様に、大会後、大会の結果、発表作品（最優秀賞）、発表者・入賞者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。
- (3) 大会後、大会発表者の発表作品や写真を掲載した発表作品集を作成し、県内中学校や関係機関等に配付します。その他、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。
- (4) 当事業に協賛いただける企業・団体を募集します。協賛いただいた企業・団体にはパンフレット、広報誌、作品集等で名称を紹介させていただきます。

◆問い合わせ先

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

〒515-0054 松阪市立野町1291 中部台運動公園内

TEL：0598-23-7735 FAX：0598-23-7792 E-mail：ikusei@mie-cc.or.jp

第38回 少年の主張全国大会 ～ わたしの主張 2016 ～

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

内閣府子ども・若者育成支援
強調月間(11月)関連事業

平成28年11月13日(日) 13:00～
国立オリンピック記念青少年総合センター

届けたい 言葉がある
伝えたい 想いがある

プログラム

13:00 開会

13:20 主張発表

(12名の中学生が“わたしの主張”を発表します)

15:00 努力賞表彰式

15:20 審査発表及び表彰式

(内閣総理大臣賞を含む三賞を発表します)

16:00 閉会

大会のねらい

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、わが国の社会や国際的な環境が大きく変化する現代社会にあって、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心をもち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身に付けることが大切です。

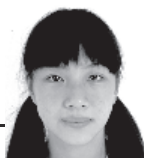
これらの契機となることを願い、また、過去37回の実績を踏まえ、「少年の主張全国大会」を実施します。

発表者(発表順)

1 長崎県代表

大久保 夢菜

諫早市立飯盛中学校 3年



社会の架け橋に

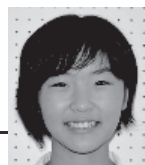
(発表内容の主旨)

ダウン症の障がいを持つ弟は、末の弟を気かけたり、勉強や言語訓練も人一倍がんばっている。障がいの有無に関わらず、「一緒に同じ時間を過ごすこと」のできる共生社会を実現するために、お互いの理解を深めることが大切だと考えるようになった。将来は特別支援学校の教師になり、障がいのある人となない人の架け橋になりたい。

2 熊本県代表

北園 真弓

宇城市立不知火中学校 3年



縁(えにし)

(発表内容の主旨)

先天的障がい(ダウン症)者の妹と大きな声で一緒に歌うことが私の大好きな日課で、自然と笑顔で明るくなる。障がいがある人ない人も、家族や友達、学校、職場及び地域等様々な縁の中では成長していく。今回の熊本地震においても、人は一人では生きていけないと強く感じた。これからは、私が人と繋がる喜びを沢山のの人に伝えていきたい。

5 栃木県代表

高瀬 樹

さくら市立喜連川中学校 3年



「いいね!」は、本当にいいのか

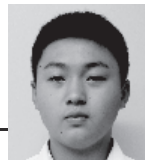
(発表内容の主旨)

ネットでの「いいね!」をはじめ、友人や家族にも同意を期待し安心していた自分。学校での演劇の練習で自分の演技をはっきりと否定されてしまったが、よりよい劇を作るという共通の目的を持っていたため、それを素直に受け入れることができた。この経験により、肝心なのは相手のことを思う「心からの言葉」だと気付いた。自分もそのような言葉を使って生きていきたい。

6 新潟県代表

高橋 心太郎

五泉市立五泉北中学校 1年



みんなが幸福な社会を

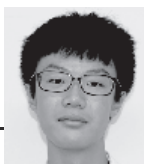
(発表内容の主旨)

耳が不自由な祖父母に育てられた経験から、障がい者が自分の意思を正しく健常者に伝えることは困難が伴うことに気が付いた。障がいのある人もない人も同じように幸福に暮らすことのできる社会を築くために、お互いに認め合うことが必要であり、将来は、エンジニアになり「手話」の音声翻訳機のような障がい者を支援する機械を作りたい。

9 富山県代表

中田 龍太

射水市立大門中学校 3年



「誰や、こんなとこに捨てたやつ。」

(発表内容の主旨)

去年から釣りに行くようになって釣り場に落ちているルアー、糸などのゴミが気になっていたが、自分も釣りのゴミを捨てていた。そんな中、カモメが傷ついているというニュースや、魚の呑んだプラスチックの粒子が人間に蓄積されているという記事を見て、自分の過ちに気付いた。それ以来、物を捨てないよう、環境に良いものを使うようにしている。人間は、自然の中で生かされていることを忘れてはならない。

10 三重県代表

中前 純奈

四日市市立羽津中学校 3年



伝えたいこと

(発表内容の主旨)

知的障がいがある8歳年上の姉にイライラしたり、周囲の目が気になることもあったが、とても優しい姉である。ある時、姉の障がいについての文章が学年通信でとりあげられ、クラスのみんなに障がいのある人に対する理解と見方を変えてほしいと伝えた。今では姉のような障がいのある人を支援したいと、介護福祉士になることが夢である。



全国大会3位！

中部近畿ブロックを通過し、三重県代表として発表した四日市市立羽津中学校3年中前純奈さんは、3位である理事長賞を受賞されました。

主催／国立青少年教育振興機構

協力／都道府県、公益社団法人日本PTA全国協議会、青少年育成都道府県民会議、全日本中学校長会、日本私立中学高等学校連合会

後援／内閣府、文部科学省、東京都教育委員会、**NHK**、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本新聞協会、社会福祉法人全国社会福祉協議会

審査委員会

○審査委員長 松本 零士 (公財)日本宇宙少年団 理事長

○審査委員

石田 徹 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付 参事官(青少年企画担当) 鈴木みゆき 国立青少年教育振興機構 理事

石鍋 浩 全日本中学校長会 生徒指導部長

土肥 克己 文部科学省生涯学習政策局青少年教育課長

内海 房子 国立女性教育会館 理事長

西川 龍一 日本放送協会 解説委員

北川 和也 (公社)日本PTA全国協議会 副会長

宮崎 緑 千葉商科大学 国際教養学部 教授

鈴木 憲夫 報知新聞社執行役員 編集局長

山本 恭輔 第34回 少年の主張全国大会 内閣総理大臣賞 受賞者

(五十音順 敬称省略)

3 山形県代表

青野 瑞希

南陽市立沖郷中学校 3年



「伝える」ことで、つながる心

(発表内容の主旨)

「人に好かれたい」という意識ばかりが強かった頃、生徒間の序列いわゆる「スクールカースト」の下位になったのではないかという経験から、仮初めの仲間意識のもろさとともに孤独を感じた。自分のことを信頼してくれる友人に会い、「自分の思いをちゃんと相手に伝えることにより、心と心をつなげ信頼できる友人を作ることが大切である」と、自分なりの答えを導き出した。

4 福島県代表

榊原 光起

会津坂下町立坂下中学校 3年



インド人～喜捨のころ～

(発表内容の主旨)

治安が悪く貧しくて汚いと思っていたインドで暮らし、その日常生活の中でインド人が実践している「喜捨のころ」に触れ、本当の豊かさを見いだした。「本当の豊かさとは足ることを知っている心である。」物質的には豊かな日本の自分たちこそが、今、「足ること」を足もとから見直さなければならない。

7 神奈川県代表

林 陸樹

横浜市立上永谷中学校 3年



新たな扉の向こうに

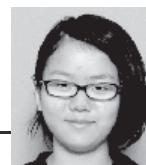
(発表内容の主旨)

いじめられた苦しい体験を文章に綴ったことをきっかけに、様々な形で自分の思いを社会に発信するチャンスを得ることができ、全国の児童生徒と熱い意見を交わした。現在、生徒会としていじめ問題解決に取り組んでいる。更に、世界の中からいじめ等をなくしたいという思いから、海外の友人とも連携を深めており、将来は、教育に携わり、弱者の声に耳を傾けられる社会の担い手となることを決心している。

8 岐阜県代表

大見 夏鈴

関市立旭ヶ丘中学校 3年



障がいは個性

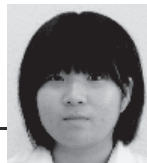
(発表内容の主旨)

幼い頃に罹った病気の後遺症により、両耳が全く聞こえなくなり、人工内耳を装着している。不自由なこともあるが、手話による会話は、お互いに向き合わなければ成り立たず、障がいがあるからこそコミュニケーションを大切にしている。自分の障がいを個性と思い、将来は助産師として障がいを持った赤ちゃんも笑顔で迎えたい。

11 島根県代表

林 英里

松江市立第一中学校 2年



つなぐ傘

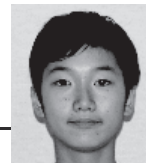
(発表内容の主旨)

突然の雨で、松江駅で傘を借り「無料貸し出し傘」について興味をもった。松江市や女子高生の始めた「無料貸し出し傘」は、なかなか返還されないことを知った。「借りた傘を次の人のために返す」ことが、祖母から聞いたもらった恩を第三者へ送る「恩送り」ではないかと気付いた。温かい社会を作るため、自分自身も「恩送り」のできる生き方をしたい。

12 広島県代表

牟田 悠一郎

広島市立二葉中学校 2年



戦争を知ること

(発表内容の主旨)

テレビで見た街頭インタビューで広島にいつ原爆が落とされたのか、答えられない人がほとんどだったことに、怒りすら感じていた。しかし、長崎に原爆が落とされた日時を答えることができなかった自分を情けなく感じ、戦争、原爆についてもう一度知ろうと思った。オバマ大統領の広島訪問も、「知る」という行動であり、戦争、原爆を知ることが平和への大きな一歩となると思う。このことを伝えていくことが僕の使命、責任である。

「障がい は 個性」

岐阜県 関市立旭ヶ丘中学校 3年

大 見 夏 鈴

みなさんは、障がい者についてどう思いますか。私は、自分が障がいをもっているのに、健常の人にどう思われているのか気になります。

私は2才の時に罹った病気の後遺症により、耳が全く聴こえなくなりました。そして、人工内耳をつける手術をしました。しかし、はっきりと聴こえるようになったわけではないので、困ることがたくさんあります。例えば、字幕のついていないテレビ番組を観ても内容が全く分かりません。プールでは人工内耳を外せば何も聴こえない状態です。みんなが話していても話の輪にうまく入っていけないこともあります。また、歌は好きですが、自分の歌う声が聴こえないため、自信をもって歌うことができません。

みなさんは、障がい者はかわいそうだと思いますか。

耳の聴こえない私は、かわいそうですか。

今、日本の自殺者は年間2万5千人近くいるそうです。その中に、障がい者は何人いるでしょう。障がい者をかわいそうと思うより、悩んで辛い思いをしている人たちを助けてあげてほしいと私は思います。障がい者の中には、サークル活動などで楽しく過ごし、自分の障がいをきちんと受け止めている人たちが多いのです。

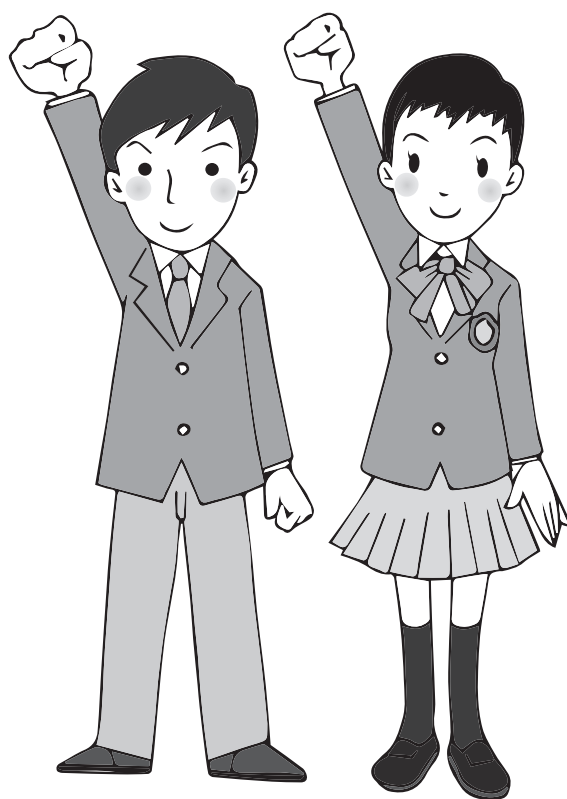
私は障がいを個性だと思っています。私は、聴こえないことをつらいと思う時もありますが、悲しくはありません。それ以上に楽しいことがあるからです。それは、手話で話をすることです。手話は聴こえない人の欠かせない言語です。声での会話は、テレビを観ながらでもできますが、手話での会話は、相手に集中しないと成り立ちません。適当に聞くのではなく、相手の表情や口の動き、手の動きを見ながら相手の気持ちを考えて聴きます。つまり、いつも相手と正面から向き合っているのです。私は手話のそんなところが好きです。だから、聴こえる聴こえないに関係なく、多くの人と手話ができれば嬉しいです。

みなさんは、車いすバスケットを観たことがありますか。私は、間近で観たことがありますが、とても激しいスポーツです。車いす同士がぶつかり合う時などは、あまりの激しさに目を覆いたくなります。健常者のバスケットとリングの高さは一緒なのに、車いすに座ったまま軽々とシュートを打ちます。その素晴らしさに、観ている方も非常に盛り上がります。

また、盲聾と呼ばれる、目が見えず、耳も聴こえない方たちがいます。どうやってコミュニケーションをとっているのかわかりますか。実は、その方法の一つに触手話があります。字の通り、手の感覚で手話を読み取ります。先程、手話は相手に集中しないと会話が成り立

たないと言いましたが、触手話は触れ合わないで会話が成り立ちません。その分、より深く相手と気持ちを分かち合えるような気がします。友達と目を閉じて触手話をしてみたことがあります、とても難しく、一部しか言葉が通じませんでした。盲聾の方はすごいなあと思いました。私たちは、障がいがあるからこそ、相手とのコミュニケーションを特に大切にしているのです。けれども、困っているときは助けてください。話がうまく通じない時は、紙などを書いて見せてくれると助かります。

このように、どんな障がいをもっている人も、本人の考え方次第で楽しく生きることができるのです。今、便利な世の中になっていますが、障がいのある人もみんなと無理なく暮らせるようになるには、もう少し時間がかかる気がします。私は、多くの人とコミュニケーションをとり、色々な意見を聞きたいです。そして、みんなが幸せに暮らせる社会の一員になりたいです。私の将来の夢は助産師になることです。障がいをもった赤ちゃんが生まれても「よく頑張ったね」と笑顔で迎え入れることができる助産師になりたいです。私は、これからも自分の障がいを個性として、コミュニケーションを大切にしながら生活していきます。



中学生のメッセージ2016
(第38回少年の主張三重県大会)

発表作品集

平成29年3月

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団
〒515-0054
三重県松阪市立野町1291 中部台運動公園内
TEL 0598-23-7735
FAX 0598-23-7792
E-mail ikusei@mie-cc.or.jp

中学生のメッセージ2016開催案内デザイン画入賞作品介绍

本大会を盛り上げるため地元三泗地区の中学生を対象にデザイン画を募集し、優秀な作品を選出しました。



デザイン画 第2位:「私の主張」四日市市立大池中学校3年 堀之内伊織さん



大会当日の展示の様子



デザイン画 第3位:「将来の職業」朝日町立朝日中学校2年 宮本和佳さん

